

施策評価シート(平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成 24 年 6 月 15 日

施策	22	交流連携の推進	主管課	名称	まちづくり交流課	関係課	総合政策課(企画)
				課長	宮崎 育雄		

施策の目的	対象 (誰、何を対象としているのか)	対象指標	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度見込み	把握方法	
	①町外の人・団体	A	利根川水系に依存する水道の給水人口	万人	2,984(H19)	→	→	→		A)利根川水系に依存する水道の給水人口 水道統計要覧による B)国連加盟国
B		国連加盟国数	国	192	192	192	193			
C										
D										
意図 (対象がどのような状態になるのか)		成果指標 (意図の達成度を表す指標)	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	設定の考え方と把握方法	
①町に魅力を感じ、まちづくりに協力する。		A	連携協定を締結している団体数	団体	1	1	1	3		A)連携する団体が増えれば交流が増加するため成果指標とした。 B)友好都市や友好協定などの団体が増えれば交流が増加するため成果指標とした。
		B	友好協定締結団体数	団体	1	2	3	3		
		C								
		D								
		E								
	F									

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	①交流事業に積極的に参加してもらう。 ②交流事業に参加したら、交流相手にみなかみ町の魅力をPRする。 ③交流事業がきっかけに知り合った相手や団体と交流を続ける。 ④交流先の文化、歴史などを知り、交流相手を理解する。 ⑤交流をきっかけに日本の文化、歴史を再認識し、みなかみ町民としての誇りを持ってもらう。	1) 町がやるべきこと ①町民や町内の団体が交流する機会を提供する。 ②町民や町内の団体が取り組む様々な交流事業を支援する。(人的・金銭的支援) (みなかみ町地域間交流事業補助金) ③友好都市等と連携し交流イベント等を企画して実施する。 ④友好協定を締結する。

1. 施策の成果水準とその背景・要因		
<p>1)現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）</p> <p>①連携協定を締結している団体数は、平成22年度1件から平成23年度3件に増加した。これは、株式会社デサントとのスポーツタウンプロジェクト、株式会社ドールとのビューティー&ヘルスタウンプロジェクトを新たに立ち上げたことによる。</p> <p>団体名と協定締結年度 ・東京藝術大学(平成20年度) ・株式会社デサント(平成23年度) ・株式会社ドール(平成23年度)</p> <p>②友好協定締結団体数は、平成21年度は取手市と、平成22年度に聯合国際学院と友好協定を締結し3件となったが、平成23年度は増減していない。</p> <p>団体名と協定締結年度 ・さいたま市(平成16年度) ・取手市(平成21年度) ・聯合国際学院(平成22年度)</p>	<p>2)他団体との比較（近隣市町村、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）</p> <p>①企業との連携は先駆的な取り組みは、北海道が株式会社ローソンと「地域の安全・安心確保、『食』の振興等の協働事業を実施することなど」を目的に協定を締結している。</p> <p>②大学との連携は、沼田市では千葉大学園芸学部の農場が市内になることから、連携前の動きがあり、川場村では東京農業大学と、村における地域活性化と同大の教育・研究の充実に寄与することを目的に包括連携協定が締結されている。</p> <p>③近隣市町村における国内交流事業においては、川場村と世田谷区、昭和村と横浜市、沼田市と新宿区など、活発な交流事業が展開されている。</p> <p>④町は友好都市としてさいたま市、取手市の2市と、都市の施設設置から交流が模索される千葉市、川口市の2市、新たな友好都市等として進めている中野区があり、交流の水準は相当高い。</p>	<p>3)住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）</p> <p>①企業との連携事業に期待する声がある。 ②新たな友好都市として中野区との交流を進めてほしいとの声がある。</p> <p>町民アンケートによると、この施策に対する満足度は、満足4.3%、やや満足15.6%、やや不満6.2%、不満3.4%となっている。</p>
2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括		3. 施策の課題認識と改革改善の方向
<p>①企業との協働によるまちづくりを推進するため企業と連携する取り組みを開始した。平成23年7月(株)デサントと「みなかみスポーツタウンプロジェクト」を立ち上げることに合意。12月7日には「みなかみ町スポーツ・健康まちづくり宣言」が議決された。平成24年3月(株)ドールとの連携による「ドールランドみなかみ」が開設した。</p> <p>②上下流交流での小松川パルプラザ物産交流、観光交流での伊奈町伊奈まつり、友好都市のさいたま市との農業まつり等、多数の交流イベントに参加し、みなかみ町の魅力をPRした(平成23年度10回)。これらを契機に町を訪れる人たちもいる。</p> <p>③平成21年度に茨城県取手市と友好都市協定を締結し、交流を進めている。平成22・23年度には夏休み親子体験ツアー(15組30人)で取手市民が訪れ好評を得た。また、取手市主催の花火大会やひな祭りなどに参加し、町民と市民の交流が深まった。</p> <p>④平成21年度から始まった中国広東省珠海市聯合国際学院との交流は、弓道やスキー教室をとおして展開されており、平成22年9月には町と聯合国際学院との間に友好協定の締結した。弓道交流およびスキー交流では町民との交流を図るためホームステイを実施している。ホストとしての協力は中国語教室の開催を通じ広がりがつつある。平成23年度は町からたくみの里の職人2名を聯合国際学院に派遣すると共に、学院から呉校長を招聘し文化交流を実施した。</p> <p>⑤「みなかみ町芸術のまちづくり」事業として、東京藝術大学と町民による芸術活動に取り組んでいる。平成23年度は絵画取扱講習会を3回(参加者延べ37人)、絵画教室(油絵、水彩、版画)を各1回(参加者延べ26人)を実施した。また、同大学の卒業生及び修了生から制作作品の寄贈を受ける収蔵事業は、平成23年度において83人から138点となった。</p> <p>⑥友好都市を拡大する動きとして、昨年度から独自の交流制度「里まち連携」を有する東京都中野区に、町の施設や教育旅行プログラムを紹介している。また、高原千葉村を有する千葉市とはこれからの交流に向けて話し合いをもった。</p>		<p>①ハピネス計画の事業展開でどれほどの企業から協力してもらえるか、いかに他の施策の成果向上に役に立つかかけづくりができるか</p> <p>②これまでの交流で培ったネットワークを活用し、様々な交流事業を展開していく必要がある。</p> <p>③町民や各種団体に交流事業を周知し、より多くの町民の参加を促す必要がある。</p> <p>④中野区の「里・まち連携」事業に参画することによる友好都市交流事業の拡大。</p> <p>⑤今後の交流について、交流先の限度と交流の内容や質の検討が必要。</p> <p>⑥合併前の旧町村で締結した国際姉妹都市との関係を整理する(チェック等)。</p>